

## 【CSW55 第4日目】2月23日(水)

【日 付】2011年2月23日、12:00

【場 所】CCUN Drew Room Ground Floor

【題 目】Integrating VAW in HIV Responses

【主催者】Women Wont Wait Campaign

【内 容】

UNAIDS の主な取り組みと、HIV&AIDS に取り組む NGO の共同キャンペーン “ Women Won't Wait Campaign ” について紹介された。UNAIDS は、2011-2015 年のスローガンとして、“ Getting to Zero”を掲げており、2015 年までに Zero new infection、Zero AIDS related death、Zero discrimination という3つの “ Zero ” を目指して、取り組みを進めていくこととしている。一方、NGO 側の動きとしては、現在、女性に対する暴力と HIV 感染の関連性に注目した活動を行っている団体があつまり、Women Won't Wait Campaign ~ End HIV and Violence Against Women Now” というキャンペーンが世界各国で展開されている。世界 YWCA は、このキャンペーンの主要団体の一つとして、とくに少女や若い女性に対するリプロダクティブ・ヘルスやリプロダクティブ・ライツに関する教育や、HIV に感染した少女や若い女性たちの支援に携わっている。会場では、UNAIDS から全体の行動計画に関する説明が行われたあと、Women Won't Wait Campaign に参加している主要団体から、それぞれの取り組みについて発表があった。

【感 想】

質疑応答の時間、ある参加者からの意見にその場にいた人たちは、言葉を失った。発言した女性は、HIV 感染者の女性であった。彼女からは、UNAIDS や各種 NGO の発表をずっと聞いていたが、HIV に感染した女性の声がどれだけ各種事業に反映されているのか不明であり、不安であるという率直な言葉が述べられた。そして、「HIV 感染者は、感染しているということだけで、差別の壁を感じたり、劣っていると錯覚したりして心を閉ざし、国連職員や研究者や NGO の代表など、政策決定や予算執行に携わるような高い地位にある人たちに言いたいことがなかなか言えない。でも、感染者の声を聞かなければ、それは誰のための政策なのか、何のためのお金なのか、分からなくなってしまう。UNAIDS が提唱する3つの Zero や、End HIV and Violence Against Women Now というスローガンを掲げる NGO のキャンペーンに投資される莫大な資金も、無駄になってしまう。なので、ぜひ HIV 感染者である私たちの声を聞いてほしい。私は、HIV 感染者と政策決定者との間の橋渡し役になればと思い、勇気を出して発言している」とつづけた。その言葉を聞いて、会場内にいた1人1人は、自分に対する言葉として重く受け止め、彼女の勇気のある発言に拍手をおくった。(福嶋)

【日 付】2011年2月23日、12:00

【場 所】CCUN 2<sup>nd</sup> floor

【題 目】Education and Training: What Do Gender, Race, Class Have To Do with it?

【主催者】United Methodist Women

【発表者】ワークショップ形式

【内 容】

地域ごとに小グループに分かれ、各グループから若い女性や少女が教育面で不平等な扱いを受けている紹介し合い、それを図式化し、その解決策の提案とともにプレゼンテーションをした。発展途上国では少女や若い女性が貧困、家事労働、早期結婚等のため初等教育、中等教育へのアクセスが妨げられている。移住労働者やシングルマザー、妊娠中の女性、紛争国や災害国の女性は一層教育を受ける機会が少ないのが現状である。先進国においても不条理な社会保障制度のために高等教育を中断しなければならなかった例や、日本のように教育面においては男女平等が保証されていても、職場における差別が依然解消されず、高等教育を受けても職につながらないという例もあった。

【感 想】

グループで詩やラップ、替え歌を作る世界Yのオリエンテーションや、今回のように絵を描いて発表するというワークショップは興味深いが、ワークショップのファシリテーターの経験や、その場のトピックに即座に対応できるだけの理解力と自分の考えを伝える表現力が必要だと痛感した。(吉田)